



林野庁 東北森林管理局  
津軽白神森林生態系  
保全センター  
平成 31 年 1 月 16 日  
No.151

## 謹 賀 新 年

皆様には、日頃より津軽白神森林生態系保全センターの諸活動に格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、白神山地が平成 5 年 1 2 月世界遺産条約に基づく日本初の世界自然遺産として登録されてから 25 周年の記念の年となりました。

そんな中、世界遺産地域や周辺地域の巡視等に欠かすことのできない白神ライン(県道)の天狗峠付近の法面復旧工事が完了し、数年ぶりに通り抜け可能となり、これまで実施できないルートも視野に入れた巡視計画としてまいります。また、町道赤石溪流線の復旧工事も完成の予定で、自然再生等の活動や、森林教室、体験学習等のフィールドの選択肢も増え、新たな箇所での実施が可能となります。

百年先を見据えた事業を展開する中、千年先の白神山地につなげていく夢とロマンをもって取り組んでまいります。

本誌でも随時お伝えしてまいりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

平成最後の新年を迎え、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新たな年のスタートにあたってご挨拶と致します。

本年もよろしくお願いたします。(上杉)

### 平成 30 年度第 2 回白神山地世界遺産地域巡視員会議(青森県側)を開催

今年度の世界遺産地域への入山シーズンが終了し、世界自然遺産白神山地は雪に閉ざされる時期となりました。今シーズン中の巡視活動結果を関係者で情報共有を図り、来シーズンの活動が効率的なものとなるよう、白神山地世界遺産地域連絡会議構成機関や各機関委嘱巡視員が一堂に会し、平成 30 年 12 月 13 日木曜日に西目屋村中央公民館にて、白神山地世界遺産地域巡視員会議を開催しました。当日の天候は降雪で道路事情もあまりよくない状況でしたが、連絡会議関係機関及び各機関巡視員の 41 名に出席いただきました。



連絡会議を代表し、  
計画保全部長より挨拶

巡視員会議開催にあたり、東北森林管理局計画保全部長より挨拶があり、巡視活動

を無事に終わられた事への感謝、今年度の巡視活動等の結果報告、ニホンジカの日撃情報並びに岩手県で実施している取り組み状況について、お話があったところです。

議事内容については、白神山地周辺における各機関の事業実績の報告に始まり、巡視員による巡視活動の状況、合同パトロールの実施結果、核心地への入山状況、樹木損傷等の状況、ニホンジカの日撃情報といった6項目と、その他として二ツ森登山道刈払いの実施結果報告があったところです。その中で、樹木損傷等の状況報告では、今シーズン中にあった違法行為である立木無断伐採1件、マナー違反である焚き火が2件確認された事について報告されており、件数としては減少傾向にあるものの、無くない状況となっています。ニホンジカの日撃情報については、白神山地周辺(青森県・秋田県)におけるニホンジカの日撃頭数が両県共に16頭ずつ確認されており、昨年度と比較して半数程度の日撃となっている報告がありました。また、情報提供として東北森林管理局より、隣県である岩手県の早池峰山周辺森林生態系保護地域におけるニホンジカ対策として取り組んでいる植生保護のための防鹿柵の設置を行ったこと、冬期間ニホンジカが越冬のため集まってくるエリアの狩猟圧を高めるために、狩猟者への支援としてアクセスルートである林道の除雪を実施しているなどの報告がありました。



違法行為について質問中



ニホンジカの生態に関する質問中

報告事項について、巡視員の方々からは、活発な意見や情報提供をいただきました。主な質問として、違法伐採を行った目的、ニホンジカの生態、白神岳避難小屋の修繕、天狗岳管理歩道の整備についてなどの質問があったところです。

返答として、違法伐採については、巡視員からの報告のほか、合同パトロールでも確認されており、その際に付近で焚き火跡が確認されたことから、たき木として利用するため、ノコギリを使用し、伐採したと推測されるとのことでした。

ニホンジカの生態については、オスもメスも個体差はあるものの、30キロメートルくらいは動き回る。季節移動をし、夏から秋は標高のある方に移動し、冬は積雪の少ないエリアに下がってきて越冬する。生息域の拡大の仕組みは、オスが新天地にて縄張りを形成し、その後に繁殖地からメスを引き連れて移動し、その縄張りに繁殖地を形成する流れとなっている様です。

白神岳避難小屋の修繕については、来シーズンに改修をする計画があり、来年度には詳しいことをお知らせできるとのこと。

天狗岳管理歩道の整備については、刈払いによる整備は進んでいるが、台風 21 号による倒木が多く、一部は片付けたが倒木がまだ残っている状況。来シーズンの早い時期に数量を把握して、片付けを実施するとのことでした。



会場全体の様子

会議の取りまとめとして、東北森林管理局計画課長より今年度の巡視活動が無事に終了した事への感謝、日頃の巡視活動及びマナー向上への啓発活動の成果として違法行為等が減少してきている事、来年度の巡視活動も安全に留意して取り組まれないとお言葉がありました。

白神山地世界自然遺産及び周辺地域における今シーズンの巡視活動は、いったん終了しましたが、白神山地世界遺産地域連絡会議としては、来シーズンも巡視活動並びにマナー向上啓発活動を継続していきますので、観光で訪れる際は、マナーを遵守に御協力いただき、白神山地の自然を満喫していただければと思います。（三浦）

---

## 越冬地調査を開始しました

青森県内においては、藩政時代に絶滅したとされるニホンジカですが、近年その生息域を広めつつあり、5 年ほど前から白神山地周辺地域においてもたびたび目撃されるようになりました。ニホンジカの監視は、東北森林管理局や環境省、青森県、関係市町村の設置した自動撮影装置、各機関の巡視活動により実施されているところです。

当センターでは、中・大型哺乳類調査の一環として、自動撮影装置を用いニホンジカの監視も行っています。調査自体は、11 月末日をもって終了しましたが、海岸部に近い地域では、降雪期に入ってからでもニホンジカが確認されるため冬期間でもデータ回収可能なポイントにおいて、自動撮影装置による監視を継続することにしました。

また、沿岸付近の地域は越冬地となりやすい条件（雪が少なく休める場所・水源・えさ場）が整っており、夏場に内陸部で目撃された個体が移動してきている可能性があると考え、今年度も深浦町（沿岸よりの山間部）で踏査による越冬地調査を開始したところです。当センターが小型囲いワナを設置していたポイントの自動撮影装置が 12 月に入ってからニホンジカを撮影したことから、まずはこの付近から調査を始める事にしました。

今回の調査では、写真のとおり痕跡が確認され、付近は越冬地の条件も満たしていることから、今後も定期的に確認する必要性を感じたところです。



調査時に発見した糞  
(ニホンジカが撮影され  
たポイント)



林道に残された足跡  
(ウサギとカモシカ?)



カモシカと思われる足跡  
(ニホンジカの可能性もあり)

また、同様の条件を満たす可能性がある地域として、七里長浜沿いの山林(屏風山)の調査も実施したところ、今回は何の痕跡も確認されませんでした。



砂浜は移動する動物の痕跡  
が見つけやすい  
(右写真の様に)



大型犬の足跡  
(河川等の堆砂地も動物  
の足跡が確認しやすい)



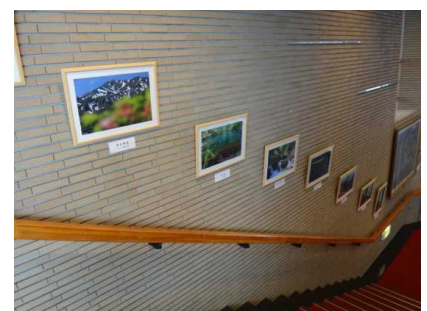
飛砂で痛い、風が冷たい  
冬の砂浜  
(シカが通るかな?)

今後もニホンジカの越冬地調査を実施していく予定ですので、経過については、誌面等を通じてご披露できればと考えていますので、続報をお待ち下さい。(三浦)

## 青森市内で写真展を開催します

青森市にある県総合社会教育センターにおいて、津軽白神の生態系を紹介する写真展を開催します。(入場無料)

白神山地ビジターセンターと合同で、白神山地周辺の動植物、それを取りまく風景など約30点の写真をパネル展示するものです。是非会場でご覧ください。



画像は昨年の様子

日時：平成31年1月16日(水)～2月24日(日) 午前9時～午後7時

※毎月第4月曜日は休館日

場所：青森県総合社会教育センター 1階アートギャラリー「sha-se」

青森県青森市大字荒川字藤戸119-7 TEL017-739-1252

〈発行〉津軽白神森林生態系保全センター

〒038-2754 青森県西津軽郡鯉ヶ沢町大字米町25-2 電話:0173(72)2931 FAX:0173(72)2932

